

平成30年度(2018) 出雲市水道事業会計予算の概要

1. 予算の概要

旧簡易水道事業の統合後2年目となる平成30年度予算は、旧簡易水道施設の維持管理費や減価償却費の増加の影響もあり、前年度に引き続き収益的収支はかろうじて黒字となる厳しい予算となっています。

収益的収支の収入は、近年の人口動態から給水人口や戸数に大きな変動は見込まれませんが、節水機器の普及等により水道料金収入の減少を見込むものの、次期可燃ごみ処理施設給水管布設工事による受託工事収益の増加によって約1億2,000万円の増となっています。

支出は、各種委託料や受水費等の減少により受託工事費を除く営業費用は約5,000万円の減となっていますが、収入と同様に受託工事費が大幅に増加するなど約1億3,000万円の増となっています。

水道料金収入の伸びが期待できない中、施設の効率的運用に努めているものの、維持管理費等が固定的に必要な費用の大部分を占めるため厳しい事業運営となっていますが、水道施設は市民生活に欠くことのできない重要なライフラインであり、いつでも安全で安心して使える水を安定的に供給するための計画的な更新整備が必要です。

そのため資本的収支では、継続費で実施している向山配水池等再構築事業の最終年度として9,000^mの向山配水池を築造します。また、新向山配水池からの基幹管路整備事業を引き続き推進するとともに、手を緩めることなく耐震化を含め老朽化した構造物・設備及び管路の更新事業を計画的に進めていきます。

なお、今後も厳しい経営状況が予測されることから、昨年から検討いただいています水道料金等審議会の答申を基に、必要な見直しを行います。

2. 業務量

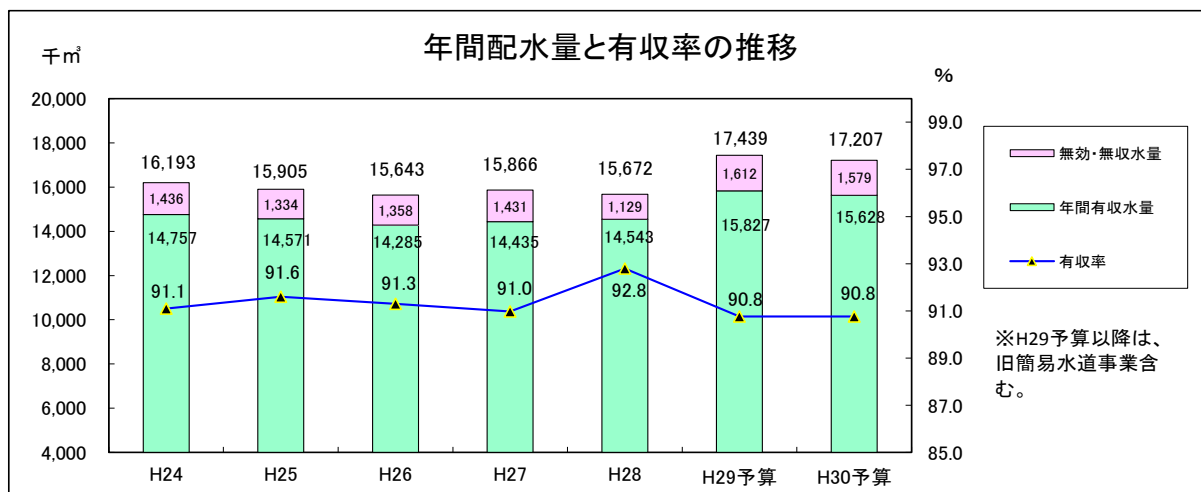
区 分	平成30年度予算	平成29年度予算	増 減	平成28年度決算
給 水 人 口 (人)	143,700	143,700	0	131,673
給 水 戸 数 (戸)	54,000	53,500	500	49,190
総 配 水 量 (千 m ³)	17,207	17,439	△ 232	15,672
有 収 水 量 (千 m ³)	15,628	15,827	△ 199	14,543
有 収 率 (%)	90.8	90.8	0.0	92.8

※平成28年度決算は、旧簡易水道事業分を含まない。

給水人口は、市全体の人口動態を踏まえ前年度予算程度であると見込んでいます。給水戸数については、アパートや分譲地の給水申請の状況から若干増加すると見込んでいます。

総配水量及び有収水量は、節水機器の普及等により減少傾向にあり、前年度より若干減少すると見込んでいます。

有収率については、旧簡易水道エリアの影響を勘案し、前年度予算程度と見込んでいます。



3. 収益的収入及び支出（経営（給水）活動のための収支）

[単位:千円]

区 分		平成30年度 予算(税込)	平成30年度 予算(税抜)	平成29年度 予算(税抜)	増 減	平成28年度 決算(税抜)
収 入	水 道 料 金	2,700,425	2,500,394	2,530,917	△ 30,523	2,327,358
	受 託 工 事 収 益	272,282	253,612	80,364	173,248	7,344
	そ の 他 営 業 収 益	49,806	46,741	46,372	369	68,060
	加 入 金	73,926	68,450	68,360	90	79,960
	そ の 他 営 業 外 収 益	524,588	524,174	542,787	△ 18,613	369,572
	うち長期前受金戻入	408,089	408,089	415,734	△ 7,645	336,410
	特 別 利 益	200	200	200	0	27,661
	合 計	3,621,227	3,393,571	3,269,000	124,571	2,879,955
支 出	職 員 給 与 費	331,132	330,920	339,893	△ 8,973	242,142
	営 業 費 用	1,270,292	1,178,907	1,045,385	133,522	739,383
	減 価 償 却 費	1,521,000	1,521,000	1,518,000	3,000	1,140,423
	資 産 減 耗 費	61,319	60,990	45,474	15,516	14,778
	支 払 利 息	218,161	218,161	232,876	△ 14,715	149,566
	そ の 他 営 業 外 費 用	133,075	56,914	54,145	2,769	12,100
	特 別 損 失	600	600	600	0	1,557
	予 備 費	10,800	10,000	10,000	0	0
	合 計	3,546,379	3,377,492	3,246,373	131,119	2,299,949
純 利 益		16,079	22,627	△ 6,548	580,006	

※平成28年度決算は、旧簡易水道事業分を含まない。

平成30年度は、前年度と同様に旧簡易水道事業の統合で収益より費用が増加したことにより、純利益が統合前に比べて大きく減少し、約1,600万円の黒字と見込んでいます。

【収入】

- ・水道料金は、減少傾向にあるため約25億円を計上
- ・受託工事収益は、次期可燃ごみ処理施設給水管布設工事に係る工事収益約2億3,500万円及び旧簡易水道不用施設撤去工事に係る工事収益約1,000万円を計上
- ・その他営業収益は、下水道使用料等の徴収負担金、消火栓設置替負担金、大田市との施設の共同化及び第三者委託負担金等を計上
- ・加入金は、口径別の近況の収入状況から全949件の見込みで計上
- ・その他の営業外収益は、土地建物貸付料、施設分担金、預金利息のほか、統合した旧簡易水道に係る利子償還に対する一般会計繰入金、減価償却費の財源となる長期前受金戻入額(旧簡易水道分約7,700万円)を計上

【支出】

- ・職員給与費は、職員35名分の人件費
- ・営業費用は、原水浄水費、配水給水費、料金徴収等の業務費、管理事務費などのほか、受託工事費に次期可燃ごみ処理施設給水管布設工事費等を計上
- ・減価償却費は、上水道分11億7,000万円、旧簡易水道分3億5,100万円を計上
- ・資産減耗費は、除却対象資産の増により約6,100万円を計上
- ・支払利息は、企業債利子償還金を計上(旧簡易水道分約9,800万円)
- ・その他の営業外費用は、特定収入に係る消費税額の費用化分(非現金)を計上
- ・特別損失は、過年度損益修正損を計上

4. 資本的収入及び支出（建設改良のための収支）

[税込み金額 単位:千円]

区 分		平成30年度予算	平成29年度予算	増 減	平成28年度決算	摘 要
収 入	企 業 債	300,000	300,000	0	300,000	
	国 庫 支 出 金	26,706	24,300	2,406	0	
	工 事 負 担 金	132,578	169,949	△ 37,371	116,150	
	他 会 計 負 担 金	9,067	32,994	△ 23,927	4,930	
	他 会 計 繰 入 金	430,057	404,518	25,539	24,622	
	合 計	898,408	931,761	△ 33,353	445,702	
支 出	拡 張 事 業	190,271	738,264	△ 547,993	484,310	
	改 良 事 業	1,478,890	1,489,966	△ 11,076	911,050	
	企 業 債 償 還 金	791,517	751,695	39,822	379,152	
	予 備 費	1,080	1,080	0	0	
	合 計	2,461,758	2,981,005	△ 519,247	1,774,512	
収支差引額(財源不足額)		△ 1,563,350	△ 2,049,244	485,894	△ 1,328,810	

※平成28年度決算は、旧簡易水道事業分を含まない。

【収入】

- ・企業債は、向山配水池等再構築事業、新向山配水系配水本管整備事業及び金山地区外配水施設整備事業を対象に3億円を計上
- ・国庫支出金は、老朽管更新事業の一部を水道管路緊急改善事業で実施する交付金(1/3)
- ・工事負担金は、下水道や道路整備など、他の公共工事に関連した配水管等の移設補償金
- ・他会計負担金は、消火栓新設工事及び工事管理システム構築経費等他会計負担金
- ・他会計繰入金は、旧簡易水道事業元金償還金及び児童手当に係る一般会計繰入金

【支出】

- ・拡張事業は、新向山配水系配水本管整備事業(中央病院付近)及び金山地区外配水施設整備事業等に係る費用を計上
- ・改良事業は、向山配水池等再構築事業により9,000m³配水池の築造、老朽管更新事業及び下水道や道路の整備事業等、他の公共工事に関連した水道施設の支障移転事業、その他配給水施設の整備に係る費用を計上
- ・企業債償還金は、元金償還金を計上(旧簡易水道分約4億2,900万円)

※ 主な建設改良事業は、次の主要建設事業一覧に掲げているとおり

【主要建設事業一覧】

○ 拡張事業

事業名称	事業費(千円:税込)	事業概要
新向山配水系配水本管整備事業 (二条化事業)	66,000	二条化本線部分に接続する中央病院北側を実施 (配水管布設φ250 L=650m)
金山地区外配水施設整備事業	62,000	金山水源から愛宕山配水系(灘分水源)の給水に切り替えるための整備 (中央監視設備、送水管L=600m、配水管L=25m) (増圧対策配水管L=260m、ブロックバルブ設置)
上島水源地整備事業	18,500	取水量低下に伴う第1取水井改良工事 (井戸築造φ250、ポンプ設置、電気工事)
その他一般拡張事業	23,500	塩冶町医大前新町線配水管布設工事ほか 支障移転関連拡張工事(下水道・道路関連)

○ 改良事業

事業名称	事業費(千円:税込)	事業概要
向山配水池等再構築事業 【H27～30継続費】	288,000 【1,640,000】	向山配水池(9,000m ³)の築造、場内配管・連絡管・配水管布設工事及び中央監視設備工事ほか
老朽管更新事業 (うち水道管路緊急改善事業)	540,000 (110,000)	更新延長L=7,604m (出雲L=4,246m、平田L=1,551m、河南L=1,807m) 出雲高校南配水本管等布設替 (配水本管φ350 L=640m、配水管φ100 L=290m)
配給水施設関連整備事業	315,000	新向山配水池内張工事、多久谷畑ポンプ所整備工事、灘分第3水源更新設計、水槽施設(計装設備)改良工事ほか
公共工事関連支障移転事業	227,000	下水道、道路整備等関連配水管移設工事等34件

5. 補てん財源(留保資金)

(単位:千円)

財源内訳	H29年度末見込額	H30年度中増加額	H30年度中減少額	補てん額	H30年度末見込額
減債積立金	363	0	0	0	363
建設改良積立金	1,143,984	0	0	265,168	878,816
損益勘定留保資金	0	1,226,711	0	1,226,711	0
過年度損益勘定留保資金	0	0	0	0	0
消費税資本的収支調整額	0	71,471	0	71,471	0
繰越利益剰余金	0	22,627	0	0	22,627
当年度純利益	22,627	16,079	22,627	0	16,079
合計	1,166,974	1,336,888	22,627	1,563,350	917,885
貸倒引当金 賞与引当金(3条)	42,230				42,401
留保資金残高	1,124,744				875,484

平成29年度末の留保資金残高は、継続費として実施している向山配水池等再構築事業が進捗し、平成29年度末における収支不足への補填を行った結果、約11億円になると見込んでいます。

平成30年度は、基幹管路の二条化や老朽化した構造物・設備及び管路の更新などを継続的に実施するため、建設改良積立金を活用することから、平成30年度末には、平成24年度から6年ぶりに10億円を下回り、約9億円となると見込んでいます。

